

令和8年度 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者指導者養成研修
専門コース別研修 意思決定支援コース

意思決定支援の必要性（講義・演習）
意思決定支援とは（講義）

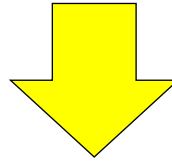
障害福祉サービスの提供等に係る 意思決定支援ガイドライン研修

科研費「障害者の意思決定支援の効果に関する研究」班

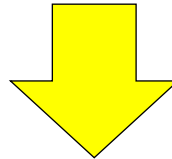
気づきグループワーク

Supported Decision Making

4



**「意思決定支援」をする
主体は誰でしょう**

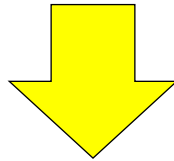


?

Supported Decision Making

5

**「支援された 意思決定」をする
主体は誰でしょう？**



？

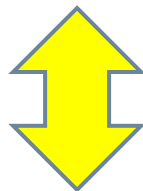
**私には、意思決定をする
権利があります。**

（一人で意思決定することが難しい場合）

7

**私には、支援された意思決定
をする権利があります。**

**意思決定をする
主体は本人**



支援者はサポーター

**「意思決定支援」は、
目的ですか？手段ですか？**

**「意思決定支援」の、
目的は何ですか？**

リスクを抜きに意思決定について考えることはできません。意思決定は、本質的にリスクを含んでいます。

- ① あなたの人生の中で、例えば、親や周囲の人から反対されたけれど、それを押し切って意思を決定した経験があったら、それをグループで共有してください。
また、そのことを振り返って、今どのように感じていますか。**

- ② あなたのこれまでの利用者への支援の中で、本人の意思決定に基づいて支援した事例があったら、どんなことでも良いので思い出し、グループで共有してください。

③ あなたのこれまでの利用者への支援の中で、本人の意思ではなく、本人以外の他者の意思に基づいて支援内容を決定した事例があったら思い出してください。

- ・それは、誰の意思でしたか。
- ・なぜ、本人ではなく、その人の意思に基づいて決定したのですか。
- ・その時に、思ったり感じたりしたことがありましたか。

これらのことを、グループで共有してください。

事例から見る「意思決定支援」 — 意思決定に対する阻害要素とは？ —

「意思決定を支援するかかわり」 について考えてみましょう

事例①「権利」に関する事例

事例②「支援付き意思決定と代行決定」の
経験に関する事例

事例③「意思決定におけるリスク」の経験
に関する事例

の中から選択して、20分程度グループワーク
を行います。

その人の意思決定を阻む要素は何か、考えて
みてください。

事例①長期入院しているAさん（60歳）

長期入院している人の退院を進めるという病院の動きの中で、Aさん（60歳）が候補となりました。長期入院となっている患者さんの中ではまだ若く、激しい症状が消退しているというのがその理由です。

Aさんは、突然、これまでかかわりのなかったソーシャルワーカーから「退院しませんか」と言われました。20年以上も入院生活を送ってきて、今の生活に大きな不満はありません。それよりも変化している社会の中でひとりで生活することへの不安の方が大きいので、どうしていいのか、自分でもわかりません。

事例②学童保育に通いたいBちゃん

Bちゃんは来春、小学生になります。そこで、保育園のお友達が多く通う小学校に併設する学童保育の利用を申請しましたが、一度もBちゃんやお母さんに会うこともないまま、却下の通知がきてしまいました。

問い合わせたところ、場所が狭くて、利用する児童が多いので「コミュニケーションがとれず、車椅子が必要なBちゃんの安全が確保できない」というのが主な理由でした。

「Bちゃんは、”お母さん“と呼ぶことはあるのですか」と聞かれたので、言葉で母と呼ぶことが無くても、Bちゃんは周りの事を良く理解していることや自らの意思や考えていることはあることを伝えましたが、担当の職員の理解を得ることができませんでした。

事例③ディズニーに行きたいCさん

Cさんはグループホームに入所しながら、就労継続支援B型事業所に通っています。

定期的に行っているCさんの関係者会議のことです。相談支援専門員から「これからの希望ややりたいことはありますか？」と聞かれ、Cさんは「ディズニーランドに行きたい」と答えました。

それに対してグループホームのサービス管理責任者からは、「この前もCD買いすぎてお金がないじゃない。ディズニーランドに行くには新幹線と電車を乗り継いで行くんだから、一人じゃいけないのよ」という発言がなされ、話はそこで、終わってしまいました。



意思決定を支援するかかわり 支援例

事例①長期入院しているAさん（60歳） 「権利」に関する事例 —意思決定を支援するかかわり—

突然の退院話に困惑しているAさんの様子を見て、ソーシャルワーカーはということが不安なのか、じっくり話を聞いてみました。

発病してから入退院を繰り返し、家族にずいぶん負担をかけたこと、親孝行もできないまま両親が亡くなり、面会や外出もないまま20数年が過ぎてしまったことなど…今の社会がどう変化しているのかがわからないという不安が大きいことがわかりました。



そこで、Aさんと同じように長期入院していた経験をもつピアサポーターのYさんに病棟に来てもらい、退院する時にどういうふうに出院したのか、退院してからの苦労や楽しみなどを話してもらいました。

Yさんは囲碁や俳句が好きで、退院してから、地域の高齢者の方が集まる憩いの家に毎日のように通って、趣味を楽しんでいることを話してくれました。もちろん、自分で身の回りのことをすべてやるのは大変だけど、ヘルパーさんに手伝ってもらっているとも言っていました。

Aさんも囲碁や将棋が好きで、病棟では右に出る人がいないような腕前です。Yさんの話で少し、退院してからの生活がイメージできるようになってきたようです。

事例②学童保育に通いたいBちゃん

「支援付き意思決定と代行決定」の経験に関する事例 —意思決定を支援するかかわり—

Bちゃんは学童保育に行って、本当に楽しいのか。どんな風に感じるのか試してみることを提案し、体験利用の機会を作りました。

子どもたちに囲まれ、笑顔で過ごしているBちゃんの姿が見られ、顔見知りの子どもたちが「Bちゃんが笑っている時は、いろいろと話をしている時だよ」と職員たちに説明してくれました。

また、母親が発作対応の方法をわかりやすく書いた資料をつくり、職員たちに伝えました。



関係者が集まる会議では、ヘルパーさんから、疲れはあるものの、学童利用後に帰宅したときに、「今日は友達と何をして遊んできたの」と聞くと、声を大きく出して、笑顔で説明しようとしたり、得意げな表情を見せてくれたと報告がありました。

行政も、Bちゃんと保護者が学童利用を希望していること、また、それを拒む理由はない前提に立ち戻り、Bちゃんがどうすれば安全に学童保育利用のための具体的環境整備を進めていくかの検討をしてくれることになったのです。

事例③ディズニーに行きたいCさん

「意思決定におけるリスク」の経験に関する事例

一意思決定を支援するかかわりー

いつもサービス管理責任者からは、お金の使いすぎだと注意され、あれもダメ、これもダメと言われてしまいます。Cさんは今回も同じだと思っていましたが、相談支援専門員が「Cさんはどうしてディズニーランドに行きたいの？」と聞いてくれました。

「雑誌で大好きなアイドルがディズニーランドに行っている記事を見て、ずっと前から行きたいと思ってたんです」そう答えると今度はサビ管に向かって「Cさんは全然お金がないんですか？」と尋ねました。「全然というわけじゃないけど…ディズニーランドに行ったら、かなりお金がなくなっちゃいますよ」という返答がもどってきました。



「じゃあ、行けるくらいのお金はあるんですね。Cさんは東京に行ったことはあるんですか？」相談支援専門員からそう聞かれたので、「東京まではEさんと一緒に行ったことがあります。Eさんは電車のことだから…」とCさんが答えました。

「そうなんですね…すぐというわけにはいかないかもしれませんが、ディズニーランドに行くために、日ごろのお金の使い方少し考えたり…これからいろいろと話していきませんか？」

そう相談支援専門員から言われ、夢がかなうかもしれないとCさんはうれしくなりました。

意思決定を阻む要素とは...

- 話せなければ言葉がないと思ってしまう
- 表明がなければ、意思がないと思ってしまう
- 障害があることで、達成できる能力がないと判断してしまう

→本人の可能性を信じることができない
その理由はどこにあるのでしょうか

サービス提供
機関の事情・
利益優先

安全を保障できない
責任を持ちかねる
(リスク回避)

情報・経験の不足

逆に先回りして
代行してしまう
(パターンリズム)